

敬ちゃん

今日、敬ちゃんが集団探検からかえ、2乗3との通知をもらう。敬ちゃんは小学校2上のあ、新一年金とこの宮城県の巨瀬^川に探検したのだ。数分がはがしとて乗って田舎の町3人は次々東京を去るとした。我が家には生憎田舎を去るに比べて知りあいのもいなかった。

母は一大決心をこして送り出したのだと思ふ定刻、高田寺の乗込まで行く、た。駅員さんがホールの送行、2よいとこの下りのホールの待、た。~~た~~この電車をやりかたしと目的の電車が来た。かきりおんほろの電車そこからまたたいて子供の集団が下りて来た。目をこらして送るも敬ちゃんはすぐわかれた、彼女のワンピースのコートでわかつたのだ。私は走りよって「敬ちゃん」と声をかけたがその子けあが「かきり」存た、もう一度「敬ちゃん」で「お、おお五り」と声をかけたが、その子けあは知らん振りして「どうしたのだらう」と不意にた、て来た。急のたけもう一度

③

玄関にたまたまはたき。でも少々のものだ。「ひどい。ひどい。」

学校へ着くと整列させら^れ先づのしかめっらしの話があり、~~子供達~~解散となつた。

学校へは母が来ていた。敬ちゃんはその母の姿を見た42~~歳~~^{しかみ}ついでワーと泣いた。母はだまって敬ちゃんの手を肩をたいていた。私も泣かされたが、ほろがやたらむしむし泣き止んでしまった。

そのころ父や母はそれぞれの都合で家を出た。なのに「只今!!」とやたら威勢よく玄関の戸を叩く。子るご自分が帰、てきとよすに私が来たかえつた。

コートをおいて敬ちゃんは「かがとボ」の格好だった。私は敬ちゃんをたいて肩下りころがつているさつまいもを見せた。「こんなにある」と敬ちゃんはあどろいていた。さつまいもや芋も口に入らなかつたのだらう。

昭和21年(1946年)戦争は終、たははいえ、日本軍中物不足、特に食糧^{11月}の乏しさを覚えた。糧

④

我が家は痔しずかし、お嬢が痔どやかつたし、父食がゴボらぢやのこもぢつた。時折手に入つ古里もろ毒黒存たんど、~~水~~中の水合が全部啗取られてしす、とうもろここの黄色のパレ。家畜のエサの採りもろを食べていた。マノ子もは袋~~糶~~^糶としとエ等たつた。

二のサノ子もは^糧母が大功お着物もお會以外に提告して買つて来たものだ。私も時折母と一緒に「川越」「入管」などの農家に買出しに行つた。既かゝ遠くあせ道でしやかみ込たんなる不後存とこつた。「木~~能~~やまのかわ」と農家の人は決して親即ぢすあつた。

ともあれその夜は、お嬢水とマノ子もろのこぢすうぢ。母は教ちゃんに思費より食でませたかつたのだ。ところが今迄ろくに食べていたのこに急に食べた。教ちゃんは具合が悪くなつた。その事母も私も気があつたのだ。あつては大場通りの名茶は買つてしす、たが病院へつれで行つた。その医者はアンプルのブドウ糖の注射をした。争ひも

④

け、そりおぼえてゐる、